

規模、能力、インパクト

成長し続ける地球市民社会の防災ネットワーク

(GNDR: Global Network of Civil Society Organizations for Disaster Reduction)

2012年-2015年



Growing GNDR in size, capability and impact 2012-2015
The headlines
May 2012

GNDR:これまでの経緯

GNDR は、協力して弱者の利益と関心事を災害リスク低減政策の形成・実施の核心に据えるという市民社会の機能を強化する目的で、2007年に設立された。第1フェーズにおける成果は以下のとおり。

- ・ 革新的で、賞も授与された「ビューズ・フロム・ザ・フロントライン(最前線からの意見、VFL)」プログラムを開発し、災害の最前線で生活し働く人々とのあいだで、その人々が生活する地域における災害リスク低減の進歩について協議した。世界各地の80カ国余の低～中所得国の5万人余の人々の意見と声を増幅して国際社会の注目を集めるとともに、ローカルレベルでの DRR(災害リスク低減)成果をモニターする必要性を強調した。世界各地の620以上の市民団体を動員して、直接顔を合わせての会議やSMS調査を実施した¹。
- ・ 市民社会、被災地の地域社会、グローバル・リージョナル・国家・ローカルの各レベルの政府、国連諸機関、国際金融機関、民間部門等相互間のパートナーシップと連携活動を重視した。
- ・ 成長を続ける支援基盤を構築した。この支援基盤は、当初はNGOによる時間と資金の拠出からスタートしたが、調整のとれた重点的な市民社会ネットワークの連携力が、持続可能な長期的変化に不可欠な要素としていっそう認識されるにつれて、いまでは政府や世銀や国連の支援にまで広がっている²。

リスク低減という課題に貢献する真にグローバルなネットワークとしての存在を確立したGNDRは、今後は第2フェーズに入り、規模と能力と、これが何より重要だがインパクトとを拡大すべきである。

弱者の回復力強化に向けて独自の役割を担うGNDR

GNDR 会員は、世界各地のもっとも脆弱な地域社会を相手に最前線で活動している。GNDR ネットワークは、誰よりもリスクにさらされている人々の日々の生活の現実への理

¹ GNDRは2011年5月、災害リスク低減に向けた傑出した貢献を評価されて、国連笹川賞を授与された。

² GNDRの確立を支えてくださった支援者の方々に感謝したい。GNDRの支援者は増え続けている。VFLプログラムの実施にあたっては CordAid、DEC、欧州委員会、ICCO、アイルリッシュ・エイド、SIDA、ティアーフアンド、UNISDR、USAID、世銀及びGFDRRから寄付をいただいたほか、リージョナル・全国・ローカルの各レベルの500あまりの市民団体から現物寄付をいただいた。

解と、リスク低減にまつわる彼らの経験とを活かして、回復力改善、とくに弱者の回復力改善を支援することを目指している。

GNDR は市民社会の成員と協力して、彼らがローカル・全国・リージョナル・グローバルの各レベルで連携ネットワークを構築するのを支援すべく、戦略的にポジショニングしている。GNDR ならではの橋渡しのポジションは、水平的には複数地域(リージョン)にわたり、垂直的にはあらゆる組織規模(グローバルから草の根まで)にわたっており、ドナーと受益者とを、政策議論とローカルな現実とを、意思決定者と実行者とを、国家と市民とを結びつける可能性をもっている。

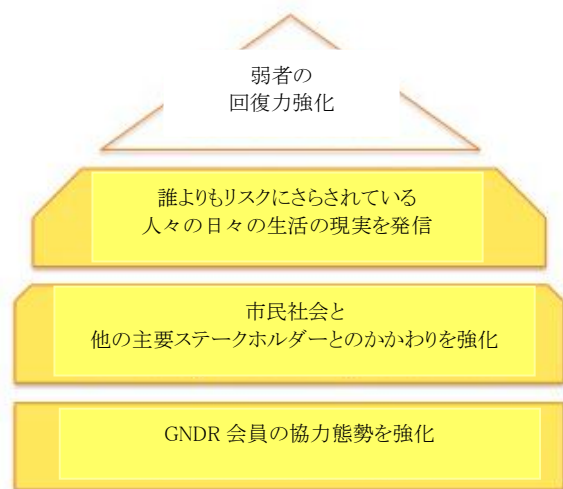
成長を続ける GNDR のインフラは、7つの地理的地域にわたっており、知識を交換し、リソースを移転し、各種のステークホルダーやセクター間の水平的、垂直的協力を円滑化するための、市民社会内外の唯一の入口となっている。GNDR は情報の上方フローを支援することで、ローカルな背景に適した政策が実施され、望ましいインパクトを及ぼすようはかることができるとともに、知識やリソースの下方普及を強化して、ローカルキャパシティを強化することもできる。

GNDR 会員は多様な視点やスキルやキャパシティや、ドナー国と相手国双方の政府や市民との関係を有している。その結果、弱者がグローバルな政策議論や意見主張にかかわり、システム全体にわたる抜本的变化を支援する連携行動をとれる可能性が生まれる。

2012～2015 年にかけて GNDR の規模、能力、インパクトを拡大

目的:「市民社会がローカルからグローバルへと結びつき、集団として意見を発信し、リスクを低減し弱者の回復力を強化するような行動を推進できるようにすること」

ビジョン:「回復力あるコミュニティから構成される世界、すなわち弱者が災害と気候変動に対して備え、その影響を緩和し、それから回復し、それに適応することのできる世界」



2012～2015 年 GNDR 戦略モデル

そのための戦略として、2012～2015 年に向けた 3 つのコア目標を設定

目標 1:GNDR 会員の協力態勢を強化

内部での活動ではネットワークに重点をおき、GNDR コミュニティを構築し、会員の能力を強化し、会員間の知識共有を強化する。具体的には以下の活動を実施する。

- ・ GNDR 会員を拡大し、より多くの国や脆弱なコミュニティとの結びつきをつくる
- ・ 引き続き「共に前進」思想に立ち、これまで共同で実施してきた VFL 活動をさらに発展させ、ネットワーク全体のポテンシャルを最大限に発揮するというコミットメントを会員間で共有する
- ・ グローバル・リージョナル・全国・ローカルの各レベルの市民社会内及びその枠を超えた健全なパートナーシップを構築するために必要な構造・スキル・リソースの開発に向けた能力育成活動に重点をおく
 - リージョナル及び全国レベルの組織と活動を強化する
 - 会員間及び最前線での積極的な学びと知識マネジメントを開発する
 - ローカル・全国・リージョナルの各リソースへのアクセスを強化することで持続可能性を強化する

成果:学びを共有し、集団として意見を発信し、共同行動をとる能力が強化された、より強力で団結を強めた市民社会ネットワーク

目標 2:市民社会と他の主要ステークホルダーとのかかわりを強化

ネットワークや市民社会全体の枠を超えて、GNDR と、弱者の回復力強化に不可欠な他の各種ステークホルダーとの結びつきを強化することに活動の重点をおく。大きく分けて2つの活動を行う。ひとつは関係と対話の構築、もうひとつはパートナーシップと連携の開発。

- ・ 既存の関係を発展させるとともに、新たな関係を構築する。とくにリージョナルレベルで。官、民、諸機関、政府間ステークホルダー、メディアなど
- ・ 従来の DRR と開発という「守備範囲」の枠を超えて、GNDR の重点事項を拡大する(気候、民間セクターなど)
- ・ GNDR のキャンペーン・意見主張努力を強化し、より明確なメッセージを開発し、チャンスを最大化する(このことは目標 3 とも関連し、VFL プログラムの一環として大衆とつながる新たな方法を開発することも含み、単なるデータ収集をはるかに超える)

成果:DRR と開発という「守備範囲」の枠を超えてパートナーシップを形成し、ローカルなコミュニティとの結びつきを強化し、それによって効率と効果を高め、もっともインパクトが求められるときにより迅速にインパクトを与えられるようになる

目標 3: 誰よりもリスクにさらされている人々の日々の生活の現実を発信

目標 1 と 2 は、GNDR の監視能力を強化し、地方レベルに発言権を与えるだろう。第 3 の目標の重点は、GNDR のアクションリサーチプログラムと意見主張・キャンペーン活動を発展させることである。

- VFL を進展させ、全国・リージョナル・国際の各レベルとつながる新たなチャンスをつくる
- GNDR にリサーチ専門の部門を設立することで VFL 活動を拡大し、ローカルレベルの行動を増やす
- 特定テーマについての GNDR の報告・キャンペーン能力を、次の 2 つの面で開発する。ひとつは政策やプログラムに影響を及ぼすサプライ・サイド活動(トップダウン)、もうひとつは誰よりもリスクにさらされている人々の社会的要求をおこすデマンド・サイド活動(ボトムアップ)

成果:弱者の回復力を高め、プログラム実施にあたっての全レベルにおける透明性と
アカウンタビリティを高めるような有効な政策に向けた進展が加速する